

実務経験が生きる 役立つ新現役交流会

青木信用金庫 新現役交流会



挨拶される木滝理事長

交流会は三者対等で企業の課題解決に向けて知恵を出し合っていく場で、職業斡旋の場ではない」など交流会の理念を話されました。

2023年8月23日 川口駅前市民ホール「フレンディア」において「第10回あおしん新現役交流会」が開催されました。今回の参加企業は28社で、そのうち17社が初めての参加でした。新現役は85名が参加され、午前、午後14社ずつ、延べ125の面談が実施されました。

主催の青木信用金庫は埼玉県で最初に新現役交流会に取り組み、コロナで二年の中断を挟んだものの意欲的に継続されています。午前、午後各回の開会式では、木滝崇弘理事長から「新現役交流会が実効性が高く、青木信金の企業支援策の柱である」ことを、SKS代表理事保田邦雄からは「新現役



理念を説明する保田代表理事

パート従業員のモチベーションアップに腐心されて参加された企業の面談に同席させていただきました。大手ハンバーガーチェーンで長年店長を務めていた新現役からパート従業員の採用、教育、モチベーションアップについて具体的提案を受けられると、それまで寡黙だった社長さんが身乗り出して次々と質問され、双方の思いがこもった議論が展開されました。

このような出会いが多く、面談ブースで見られ、実務経験に基づく支援の有効性にあらためて気づかされました。今回も新現役交流会の成果を確信すると同時に、新現役の参加意欲を引き出し、面談の質を上げる事前ヒヤリング、課題シートの重要性に身が引き締まる思いでした。



熱心な議論が展開されました

「新現役交流会を青木信用金庫の企業支援の看板にしていく」という想いをトップから支店長まで共有され、よく準備された熱気ある運営がなされ、企業も新現役も満足度が高い新現役交流会になったと感じました。

文＝野澤